

# 神林公民館・福祉ひろば合同

# 令和2年度 神林作品展示会

10月18日(日)に開催されました。新型コロナウイルスの流行対策をしながらの展示会でしたが、300名以上の方から600点近くの作品が寄せられ「地区の芸術や文化の向上と交流を図る」という目的は十分に果たせたと思います。



受付の様子



多くの方の作品が展示されました



人気を呼んだNゲージの展示



令和2年11月1日現在	
総世帯数	1,955世帯
総人口	4,795人
男	2,338人
女	2,457人



カラフルな絵手紙



福祉ひろばコニニの作品



ポスターコンクール入選者・公民館功労者表彰を受けた方々

公民館功労賞の受賞の皆さんからは、感謝の言葉とこれからも公民館活動に関わっていきたいとの言葉をいただきました。なお、受賞者は浅田武門さん(南荒井)、浅田芳保さん(南荒井)、木次由美子さん(町神)

## キーワードはなに?

本紙神林版の記事内にキーワードの文字が散りばめられています。見つけて言葉にしてください。わかった方は神林公民館に備え付けの用紙に必要事項を記入してご応募ください。アンケートにお答えいただいた正解者の中から抽選で**5名様に500円分の図書カード**をプレゼント！締切は**12月28日(月)**、当選発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。多数のご応募お待ちしております！

【前回の答え】 **ちゅうしゅうのめいけつ** ○○○◎○○○○○  
【今回のキーワード】 ○○○◎○○○○○



何をそんなに見たの？



園児が描いた微笑ましい作品たち

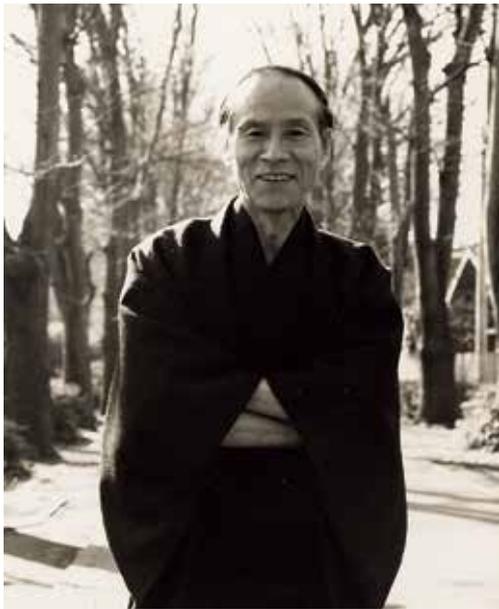
## 鎖川

松本山雅FC所属のJ2リーグは6月末に再開したが、怪我等によるコンディショニング不良の選手が多いのと過密日程のせいもあって前半戦は4勝7分け10敗と不甲斐ない戦績で、順位も20位に後退してしまいました。そして布監督は解任され、代わって柴田編成部長が新監督になり後半戦を戦っています。なかなか勝てない試合が続いていたが、10月は怪我から復帰できた選手も先発するようになり2勝4分け2敗と少し状態が良くなってきているように思われます。コロナ禍で観客動員数の上限が収容人数の5割まで引き上げられ、サンプロアルウインは1万人となったが入場者数はまだ達していません。ホームで勝った試合が少なく、足を運ぶのが遠ざかっているのでしょうか。応援も拍手だけに制限されていますが、鳴り物での応援が解禁され元に戻りつつあります。我々サポーターは応援で後押しするしかありません。いつものスタジアムと選手が一体になった応援での勝ち試合をもっと見たいです。山雅劇場に期待しましょう。

# 郷土の偉人

(前編)

上條信山先生の書と人となりをたどります



訪れデモン

9月、神林公民館夜間講座で神林寺家に生誕された書の大家上條信山先生の書と人となりを学ぶ講座が開催されました。講師は松本市美術館学芸員の大島武さん。2回に亘り紙上でご紹介させていただきます。(本文中、上條先生の敬称は省略させていただきます)

信山(本名上條周一)は1907年(明治40年)東筑摩郡神林村に生まれました。父は厳しい人で進学を認めませんでした。それでも野球の好きな少年は1925年(大正14年)、学費免除の長野師範学校(現・信州大学教育学部)に進学してエースとして活躍。在学中に県展に応募した作品が2年連続で最高賞を獲得して書の頭角を現します。信山という雅号は時の県展審査員だった比田井天来により「信州にそびえる山」としていただいたものです。

師範学校卒業後小学校に勤務しましたが、25歳で上京。大東文化学院(現・大東文化大学)漢文科そして同高等科(大学院)で勉学に励みました。終戦後の教育改革ではGHQの指導により小学校での毛筆習字が全廃とされたことに対して教育課程での必修を訴えて復活させた功績は大きく、

東京教育大学教授として書道教育振興に尽力しました。また、先師の中国をはじめアメリカ、フランス、イタリア、オーストラリアを訪れデモン



ストレーションを行って書が世界に誇るべき芸術であることを広め、それらの功績により1996年(平成8年)、松本市名誉市民の称号を受け、同年文化功労者の顕彰を受けました。

信山は宮島詠士(みやじまゑいし)を師として仰ぎ、宮島は中国の張廉卿(ちやうれんけい)を師としました。師匠の宮島は弟子をいっさいとらず、書は自分自身を映す鏡であるとしてひたすら古典学習を行い、臨書に徹する指導をされたと言われています。その書は横や縦の線が整った書で張が宮島に伝え、そして宮島から信山に伝えられたとされます。

宮島の没後、36歳の時の作「臨張猛龍碑」が日満支三国親善展最高賞を受賞し、信山の書壇デビュー作となりました。これには、書家の田代秋鶴から「こんなところで埋もれていてはもったいない」と助言を受けたことにより、以後学んだ成果を発表することで形に表すようになった背景があります。

信山のいくつかの作品を誌上で紹介させていただきます。

「汲古」きゆうこ  
古を汲むという意味。70歳作。日本芸術院賞受賞。どっしりとして懐が大きい書です。知性に満ちた雄勁の筆をもって、清純にして都会的な書風を創造して重厚にして雄渾な表現に到達した優作であると評価されています。



日本芸術院蔵

「壯心」そうしん  
・さかんな心という意味。80歳作。もはや何者にもとられない書の心境を表していると考えられます。

信山は生まれ故郷松本市神林への思いも深く1996年(平成8年)89歳のとき「望郷碑」を揮毫され神林公民館正面玄関入口の左手に住民のみなさまを温かく迎えるように碑が建てられました。また、県庁前には県歌「信濃の国」の歌碑を揮毫。松本城入場口門柱には「国宝松本城天守」が揮毫され、天を突くお城の荘厳な雰囲気醸しています。今回は身近にある信山の書や揮毫された碑をご紹介します。どうぞお楽しみにして下さい。

「堅勁」けんけい  
・堅くて強いという意味。62歳作。日展で発表され、内閣総理大臣賞受賞。筆の使い方、文字の構成、墨の使い方の特徴が見られ、信山がこれまでに培った信山流のひとつの高みに達した作品と言えます。



松本市美術館蔵



松本市美術館蔵